

茨城県
教育
研究会

会 報

第174号

<「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実>

特集 「本年度の活動方針・事業計画」

平成29年7月14日
茨城県教育研究会
代表者 小島 睦

事務局 水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
TEL 029-269-1300
FAX 029-269-1304



運動会 (水戸市立三の丸小学校)

授業改善・充実への取組



茨城県教育研究会長

小島 睦

本県の平成28年度全国学力・学習状況調査では、8分野中7分野において全国平均を上回り、学力向上に向けての取組が着実に進められていることが確認されました。先生方の真面目で前向きな姿勢・取組に頭が下がります。

県のブラッシュアップ研修では、文科省・学力調査官の先生方からも、本県の課題を踏まえ、組織的に取り組むための具体的なご指導をいただくことができました。講話の中では、どのような誤答が多いのかを予想する機会をいただきましたが、教師の予想と児童の実態とは必ずしも一致するものではないことがわかりました。改めて「こういうところにつまずいていたのか」に気付き、客観的な調査や分析が必要であることを思い知らされました。

モデルを明らかにするというよりは、このような視点に照らして先生方が日々実践しておられる授業を少しずつ見つめなおしてみることが大切なのだと思います。

全国調査の学校質問紙と児童生徒質問紙のクロス分析を見ると、
「学校は児童生徒の話し合う活動を行ったと考えていても、よく行っていたとは思っていない児童生徒が一定割合存在する」のよう
な状況が記述されています。やはり、今年度の研究目標である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実」には、まずは児童生徒の実態を丁寧に捉え、授業において何をどう改善したのかを共有できる研究の積み重ねが必要で、新学習指導要領の実施を踏まえ、教育研究会のこれまでの実績・成果を大切に、授業改善に着手に取り組んでいただくことを期待します。



第 56 回 茨城県教育研究会総会並びに研修会 平成29年5月11日 (木)

<議 事>

- (1) 平成28年度事業並びに収支決算書の承認について
(2) 役員承認について
(3) 平成29年度活動方針・事業計画並びに収支予算書(案)について
(4) その他

<記念講演>

講師 茨城大学大学院教育学研究科 准教授 加藤 崇英 先生
演題 「学校における業務改善の在り方」

平成二十九年 活動方針

茨城県教育研究会は、各都市支部、町村研究会、各研究部の研究活動や専門委員会の活動を通じ、教職員の資質、能力の向上を図り、子供たちに「生きる力」を育むことを目指して、鋭意努力を重ね、着実にその成果を上げてきた。

教育を取り巻く環境が大きく変化している今日、東日本大震災等の教訓を生かし、かけがえのない自他の生命を大切にすることを基盤として、生きる力である「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」をより一層育むことが強く求められている。

このときに当たり、私たちは、全国に誇れる本会の輝かしい歴史と伝統を継承しつづけて、子供たち一人一人の夢や希望を育む教育を展開し、家庭や地域社会の信頼と期待に応えなければならない。

そのため、全委員会が主体的、協働的に研究活動を推進し、研究目標の具現化に努めるものとする。

I 研究目標
次期学習指導要領が目指す姿を踏まえ、子供たちに「生きる力」をより一層育むために「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた研究を推進する。併せて、生じたにわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善、一歩を努める。

一 学ぶ意義を育む
学ぶ意義を明らかにし、学びたくなる環境づくりや分かる授業づくりを通して、学ぶ意欲を育むための研究に努める。

二 思いやりと感謝の心を育み、健やかな体を育てる。
道徳教育及び体育・健康・食育の指導等を充実させ、豊かな心と健やかな体を育むための研究に努める。

三 創意ある教育活動を展開する。一層深い、信頼と活力に満ちた特色ある学校づくりの研究に努める。

II 研究の進め方
一 基本的な考え方
業務の効率化や組織の活性化を推進し、研究目標の具現化に努める。

二 本部主催事業
研究部及び専門委員会の活動について
(一) 本部主催事業
(二) 本部主催事業
(三) 本部主催事業

三 創意ある教育活動を展開する。一層深い、信頼と活力に満ちた特色ある学校づくりの研究に努める。

四 道徳教育及び体育・健康・食育の指導等を充実させ、豊かな心と健やかな体を育むための研究に努める。

五 道徳教育及び体育・健康・食育の指導等を充実させ、豊かな心と健やかな体を育むための研究に努める。

(図) 平成29年度茨城県教育研究会組織図



- 1 教育課程
2 国語
3 社会
4 算数・数学
5 理科
6 生活・総合
7 音楽
8 図工・美術
9 体育・保健
10 家庭・家政
11 英語
12 道徳
13 特別活動
14 学校図書館
15 特別支援
16 情報教育
17 生徒指導
18 学校事務
19 キャリア教育
20 学級経営
21 学校健康
22 人権教育

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- 1 水戸市
2 笠間市
3 ひたちなか市
4 常陸大宮市
5 那珂市
6 小美玉市
7 東茨城郡
8 那珂郡
9 久慈郡
10 日立市
11 常陸太田市
12 高萩市
13 北茨城市
14 鹿嶋市
15 神栖市
16 鉾田市
17 潮来市
18 行方市
19 土浦市
20 石岡市
21 龍ヶ崎市
22 取手市
23 牛久市
24 つくば市
25 守谷市
26 稲敷市
27 かつみがら市
28 つくばみらい市
29 稲敷郡
30 北相馬郡
31 古河市
32 結城市
33 下妻市
34 常総市
35 筑西市
36 坂東市
37 桜川市
38 結城郡
39 猿島郡
40 茨城大学

- ◆平成二十九年 役員名簿
会長 小島 睦
副会長 石川 千夫
監事 石川 千夫
事務 石川 千夫
企画員 石川 千夫
副委員長 石川 千夫
委員長 石川 千夫
支部長 石川 千夫
副支部長 石川 千夫

記念講演

「学校における業務改善の在り方」

茨城大学大学院教育学研究科 准教授
教育実践高度化専攻 (教職大学院) 学校運営コース 主任
加藤 崇英 先生



私は、県教育委員会義務教育課と一緒に業務改善の取り組みをさせていただきました。茨城県の取り組みは早い方だと思います。一緒に取り組ませていただいて勉強になったことがたくさんございます。私から助言というよりは今後一緒に考えて考えさせていただきます。今日は、校長先生方が中心かと思いますが、ぜひ、教頭先生、教務主任の先生、中堅の先生方にも今後の学校経営、マネジメントにおいてことさら「業務改善」とわざわざ言わなくても学校経営の標準として進めていくのは当たり前なのだとお伝えただけだと思います。

内容としては、業務改善というのは、マネジメントの中で普通に組み込んでいかなければならないんだと。同時にマネジメントを進めることが業務改善であり、業務改善を進めていくことがマネジメントを進めていくことというのが私の研究の中心でございます。

それ以外にも昨年度の冬、この年度末・始めから慌ただしく法令改正が起こっています。政策動向、法令改正についても合わせて確認していけたらと思っております。新しい学習指導要領に向けてどういうふうに取り組んでいくかというのには先生に共通のところだと思えます。一方で、学校の骨格、マネジメントに関わる部分、さらには学校と地域の関係であるとか教師の養成の制度改革が同時進行的に進められているというのが現在の大きな特徴です。その大きな流れを決定づけているのが平成二十七年の十二月に出された中教審三つの答申というになります。私も委員として関わっ

たのですが一つは「チームとしての学校の在り方」と今後の改善方針について(答申)。簡単に申し上げますとこれまで課題が増えれば何でも教員がやってきた。なので教員を増やして下さいと教職員配置を行ってきた。「加配教員」として対応してきた。そういったことが難しくなっていく。教員は、まず授業、子どもの指導をしっかりやっていく。それ以外の部分については、それ以外の部分を担う職員を付けていくのが筋だろうということが国全体の方針になったところが「チーム学校(答申)」の特徴です。チームワークをもってとか協働性を高めてとかは従来から言われてきた。その重要性は今後も変わりませんがそのチームワークをどういった職員が作っていくんだ、と。今までは職員がみんな教員でみんな一緒にやろうと言っていた。ところがこれからは異なる専門をもっている人たちの集まりにどんどんシフトしていく。そういった人々が協働性を作って

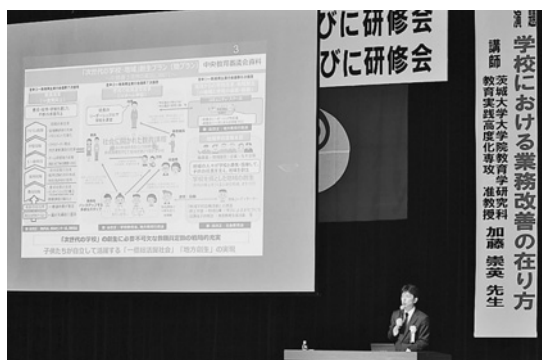
いなければならない。今まで言っていた「チームワーク」と決定的に異なる。二つ目は、新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携、協働の在り方と今後の推進方策についてというものです。こちらも学校のことには変わりませんが学校と地域がどういった関係を作った方がいいのか改めて提言している。コミュニティスクールを進めていこうというのが政府的なねらいになっていいます。茨城県にはたくさんコミュニティスクールが設置されてきたわけではないので制度状況との擦り合わせが今後起こってくる可能性ががあります。今まで茨城県がやってきた何らかの学校と地域の関係を、この提言で言っているような流れにどういうふうに合わせていくのか課題になっていると思えます。

三つ目は、これから学校教育を担う教員の資質・能力の向上について、学び合い高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて、大学の教員養成のカリキュラムが新しいものに変わ

資料3 「次世代の学校・地域」創生プラン (馳プラン)

「次世代の学校」の創生に必要な不可欠な教職員定数の戦略的充実
子供たちが自立して活躍する「一億総活躍社会」「地方創生」の実現

わったりあるいは教員の研修の在り方、採用、現職の研修制度改革に関わって提言している内容になっていきます。これらの三つの内容と冒頭に話した新しい学習指導要領、大きく合わせた四つが今の義務教育関係の教育の流れを方向付けていると思えます。文部科学省の資料でよく使われているものを持ってきました。同じように三つ並べて説明しています。三つの答申が縦に並んでいる図になっている。これが相互に関連しながら教育の改革を進めてい



くというところで、平成二十七年末に出され、そのすぐ後の国会で法令改正の準備がなされていたようですが、後で申し上げるような法令改正が最近あった、ということとです。図の中心にある「社会に開かれた教育課程」。新しい学習指導要領をやっていくそのためのチーム学校を構築しましょうということとです。左側のところには、学校にどういった教員が輩出されるか。右側の所は、学校と地域の関係がどうあるべきかといったところの図のイメージになっております。「チーム学校」のところでは業務改善を基盤として進めていく。教職員一人一人は次の学習指導要領に向けて指導力向上や教材研究を進めている。そのための環境作りをしなくてはいけない。

アクティブラーニング。一方でカリキュラムマネジメントでしっかりと編成していく。こういったような目標ができておりますのでこれらを進めていくような環境作り、組織作りになっていくんですが、学校の組織、業務環境を改善しなくてはいけないということもチーム学校の中で合わせて議論されておりました。それから、学校の事務職員の方々の位置づけがずいぶん変わってきています。昨年、事務職員の共同実施というのを義務教育課で一緒にお手伝いさせていただいております。全国的なスタンダードというものがありまして、進んでいる県とそうでない県が極端に違っていた。この数年来ようやく各県の事務職員の共同実施の足並みがそろってきたという判断があり、法令改正になった。

さらに、異なる専門性の職員の方々の位置づけ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー。スクールカウンセラーは心理。生徒の内面的なこと。スクールソーシャルワーカーは福祉について。生徒の行動や活動、関係性について。学校と関係機関のつなぎといった動きをされている。かなり重なる部分もあります。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを含めて多様な職員を、組織内外の職員を組織してこういうふうに行っておりま

す。チームとしての学校像といったしましては、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校、という言い方をしております。従来から校長先生方のリーダーシップの下、とは言われておりました。マネジメントという言葉もいろいろなところで使われるというのは違和感がなくなりました。ただしこの三つ目、多様な人材がそれぞれの専門性を生かしてというところがこれまでの職員の構成が徐々にかわっていくだろうということとです。

学校の先生方がより自分の専門性を高めていく組織にしたい。ただその時間がない。なかなか研究に勤しめない。教育に時間をかけられない。子供と接する時間が短い。だから業務改善を進めていかなくてはいけないんだとつながっていくんじゃないかと思えます。今後さらに学校のマネジメント業務、コーディネート業務、事務的なものも含めて減らさないとと思う。どんどん増えていってしまうのではないかと思うんです。これにかかる時間も膨大だと思っております。こういったところの機能を強化していかないといけない。これも業務改善が関わっている話です。教員一人一人が力を発揮できる環境整備と言っているところが直接業務改善に関わる内容だということとです。チーム学校の議論を進めていく中で、当然その職員配置をどういう風に進めていくか、その表裏一体として、環境整備、働きやすさがある。職場環境を変えていく。そういった議論も合わせて進められております。平成二十七年七月、チーム学校の中間まとめが出される時、そのタイミングで「学校現場における業務改善のためのガイドライン」が出されました。この中で事務職員の位置づけ、校務の効率化、情報化も進めていく。学校は地域との関係で業務が増えている。地域との協働の在り方、教育委員会による率先した学校サポートの体制作り、学校の中で困難な課題、保護者の関係、子供の関係、さまざま教育委員会がサポートできる仕組みを作っていくということもありません。このように、業務改善とは言っても、学校の組織改善でありますし、マネジメントの改善でありますし、そういった学校をとりまく地域との関係、教育委員会との関係全般を見直して再編していくというものが業務改善の中味になっているので、単に物や事務処理を「ちょっとこう変えた

らいいんじゃないの」ということではない。ごく一部の教職員でやるのではなく、いろいろな側面でも多くの教職員にこの問題を考えしてもらって取り組んでもらわないと一人二人で業務改善が進むわけではないんだということがわかりになるのではないのでしょうか。さらに、チーム学校の答申が出てすぐ後に、「学校現場における業務の適正化に向けて」（文部科学省・次世代の学校指導体制にふさわしい教職員の在り方と業務改善のためのタスクフォース）のメンバーがこういった報告を出されました。とくにこの部分を改善していかなくてはならないんだ、と出されています。一つは学校徴収金事務の負担の解消。先生が集めて先生が計算して先生が管理して。先生の本業ではないだろうということとを解消していかなくてはならない。事務職員は、給与と旅費という制度規制以外のことはやりませんよとなった時、誰がやるんだ。では先生が、とならざるを得ない所があった。学校事務職員がやってくれる地域もあるし、教員がやらなくてはならない地域もあるし、ばらばらだったということもある。それから部活動に時間が取られる。チーム学校の議論のきっかけの一つでもある。OECDの国際調査の中で、日本の学校の教員が先進諸国に比して非常に勤務

時間が長い。その中で大きな問題は部活動である。なんとか軽減していこうじゃないか、と。もう一つは校務支援システムによる効率化と負担軽減。業務改善と言われて直接的に、それは何か、と言われるのであれば最近ではこの大きな三つです。ここに大きな資源を投入してこれらの改善をしていこうというところが大きく動いてきたところでございます。文部科学省の研究指定で取り組む自治体もあります。

ところで、法令改正があり、チーム学校の流れで職員の位置づけが変わっています。事務職員は「従事する」から「事務をつかさどる」に変わっております。事務職員が学校全体の事務を扱うんだという位置づけ。主体性をもって取り組んでいくんだというように法律が変わっている。合わせて事務長、事務主任の施行規則も変わっています。強化されています。確実に法令改正という面では、事務職員の位置づけがこれから変わって参ります。当然こういった所が変われば採用の在り方も研修の在り方も変えていく。それに合わせて現場での職員の働き方を変えていかななくてはならない。地教法の方ですけれども、共同学校事務室、共同実施事務（複数の学校がまたがる形で事務を処理するような取り組みを「学校事

務の共同実施」という言い方をしてきたわけですけれども、「共同学校事務」が法令として位置づけられたというのも大きなところだと思います。置くことができる、という「できる」規定ですけれども、そこに室長において取り組んでいく、というところも大きく変わったところだと思います。それからスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーも配置しやすくなるという改正です。中学校以上になります

が、省令改正で部活動指導員を置くことができる。これら、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員はどちらかというと外側の方だった。ですが規定の中で内側に入っていく。事務職員は事務の仕事はこういうものだと決まっていたところから、学校全体のいろいろな事務に関わっていく。当然管理職との関わりも出てくる事務の範囲も広がる。教員が教員としての本来の専門的な仕事に従事できるような環境を作っていくための職員配置であって、そのための法制改正であってそういう準備をしていくんだという法令的な動きなわけです。チーム学校から一年以上経つてようやくこういった法令改正が進んできた。政策的な動き、法令的な動きが進んできている。いよいよ学校現場ではどうなんでしょうか。環境が整ってくることにな

るのかなと思います。なぜ業務改善なのか。三つに整理できます。

一 新学習指導要領への移行期にあつて、新たな体制構築と作業効率向上のために

二 「チーム学校」を趣旨とする職員配置と新たな協働体制の構築のために

業務の流れ、会議の扱い、改善が必要。

三 ワークライフバランスのため（いわゆる「働き方改革」）

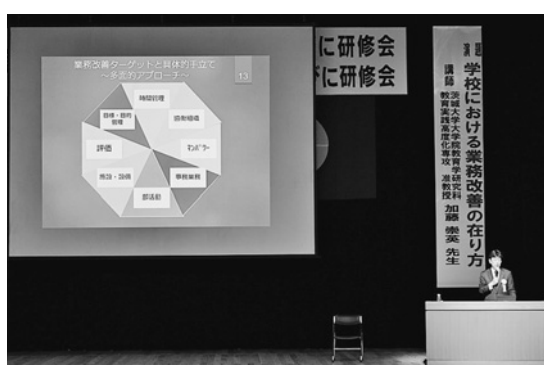
この仕事を誰がやるのか、そういう職員を配置していきましようということが今、最大のチャンスとなっている。仕事や人を位置づけていくことが重要です。

業務改善の着眼点としては、まず量（時間）に関する見方。そして質（ストレス・メンタル）に関する見方。同じことでも得意だということも先生もいるし、これは不得意なんだということ。部活動で言えば、土日だろうと部活に命かけているので大丈夫ですという先生もいる一方で、土日ぐらいは家庭で過ごしたい、自分の住んでいる地域で活動したいという先生がいらっしゃる。非常に難しい問題です。業務改善を進めていく中で負担が全てなくなるわけではない。負担感をいかに軽減していくか。これがマネジメントの重要な課題だと思います。どうなっていくのかかわからない中で仕事をしていると大

変だと思えます。マネジメント支援で負担感を和らげる、量的に減らせるところは何か減らし、質的なところで得意、不得意を見ていこうではないか。

茨城県の取り組みでは、私は、平成二十三年度から関わらせていただいております。ホームページに事例がでています。他県と比較しても茨城県はかなり力を入れて取り組んできています。これまでの成果があるので、それらは継続し、新たな課題に取り組んでいただきたいと思えます。近くの学校の事例や同じ課題の事例を見て参考にしていただけだからと思えます。

六年間一緒にさせていたいただきましたが、私が言っていることは変わりなく業務改善の話では多面的アプローチ、いろいろな側面



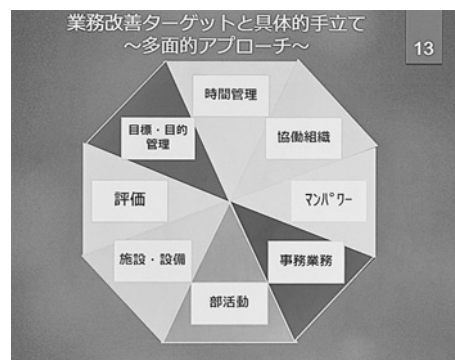
取り組んで下さいとお話していただきます。協働組織、マンパワー、事務業務、部活動、施設・設備、評価、目標・目的・管理、時間管理。これらの領域があつて同時進行的に進めていく、というふうに私自身このように考えております。なぜ多面的なアプローチなのか。一つは改善に対する持続性。私が手伝わせていただくとワッと一時期はやってもらったりする。ところがピタッと止まって、あれ、何だっけということになってしまふ。あるいはこの先生一生懸命やっていた。ところがその先生が人事異動したらピタッと無くなってしまふ。息長くちよつとした小さな改善でいい。できるだけ多くの改善を仕込んでいく。全ての教職員に関わりができるように。その時初めて大きな改革が動いていくのではないかと思います。管理職の方々がやかましく言って変わってもその部分だけで他はほったらかしで結局元に戻ってしまうという場合もある。ですので、茨城県の場合、私は「多面的アプローチ」というのをずっと伝えてきていますので、モデル校に取り組んでいただいた。

多面的なアプローチとして

(一) 目標・目的管理系

学校教育目標をシンプルにしていく。

(二) 時間管理系



タイムカード等の活用(厳しくするのはなく時間の管理。先生に本人に自覚してもらう。)

(三) 協働組織系

①校務分掌を整理していく。

②会議・会合

職員会議、運営会議、学年会、教科会、各種委員会等の回数削減、時間減。

低・中・高ブロック組織の活用(小規模小学校)

その学校の規模に合わせて組織が違うということ意識していく。調査すると単学級(一学年一学級)の小学校と一学年六学級の規模で同じ校務分掌だったという自治体もあった。合理的ではない。

③授業支援、生徒指導・支援組織

TT、少人数指導組織等、授業支援組織の改善。最低限の打ち合わせをしないと

効果的にならない。ここにスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用も入ってくると思いますが。若手の教員が増えていたら、どういうふう支援していくかということも業務改善と考えています。

(四) マンパワー強化系

これまででは外側の方々の関わりをマンパワー強化系と呼んでいた。これからは特に教頭先生や教務主任の先生が外側の方との渉外業務から少し手離せるのが大きな課題。将来的には学校事務職員にそういったところをサポートしてもらおう。学校事務職員を複数配置していく自治体もある。管理職と教育委員会が一緒になって取り組んでいかなければならない。

(五) 事務業務系

① ICT化

校務支援システムが入っているか入っていないか、大きな違いがある。

② 諸点(その他)

学校徴収金を学校で直接集めない仕組みを作っていく(いわゆる「公会計化」)。

施設見回り・点検
教科書事務
スクールバス等の手配
施設貸し出し業務(社会教育との連携関係) など

(六) 部活動

保護者や生徒の期待があるのでなかなか難しい。私の立場で申し上げると部活動をやりすぎている教員が多い。やはり力を注いでいる方が多いと思いますけどもこの部分を変えていかないといけない。若い教員にとっては目の前で起きていることがスタンダードになります。若い教員が増えてくる今だからこそ新しいスタンダードを、考え方を作っていただきたい。

(七) 施設・空間系

利用教室の整備、ICT環境整備
教材・教具の管理
児童・生徒、教職員の移動に関すること(移動時間、休み時間・休憩の現状など)

(八) 評価

① 学習評価

② 学校評価
アンケート実施や事務作業の軽量化

業務改善全体にいろいろ関わることは、教頭先生・教務主任の先生がキーマンになると思っています。なかなか学校全体の業務は減っていかない。業務を増やしてもらえない。業務を整理し、業務と人をつかり位置づけていかな

いといけないのが管理職の役割だと思います。プラス教育委員会、文部科学省と一緒にやっていかなといけません。校務支援システムについては、教

育委員会関係の人に詳しい人が少ないというのが実感です。教育委員会の方に関心を広げてもらいたい。導入すると学期末・年度末の作業時間は十五分の一か十分の一ではないかと聴きました。まだのところは教育委員会と一緒にやってもらいたいし、導入したところも調整したりする必要があるので連携していただきたい。業務改善はマネジメントとして考えていた

だかしないと狭く考えてしまう。一つは、時間に対する見方を変えないと業務改善は進んでいきません。二つ目は、ルールを作る、確認しなくてはならない。三つ目は、時間の見方を変え、ルールができたらこう動きましようと思いで協力する、役割分担ができる、「人と組織」の問題。業務改善を進めていくとマネジメントなんです。マネジメントを進めているということは業務改善を含めたマネジメント、学校経営がこれからの標準ではないかと考えています。

学校組織マネジメントで学校が「動く」ために「成果」を出すために

- 一 ビジョン、ミッション
- 二 組織
- 三 チームないしプロジェクト
- 四 個人スキル

一番難しいのは三番目のところ。このチームは三、四人の小

さなチームと考えて下さい。学校の取り組みを良くしたり、変えていくのには三、四人のチームでチームやプロジェクトが学校の中であるところでは何人かが動いていくことがマネジメントの成果、効果が出る場所ではないかと思えます。

最後に、地域と学校関係でも法令改正があります。一番大きなところはコミュニケーションの設置が努力義務化されています。今後、教育委員会を中心にコミュニケーションスクールを設置していくという動き、流れが増えていくのではないかと思います。社会教育法では「地域学校協働推進員」を位置づけた。外側の推進員、地域とのコーディネート。一方で中

の学校側からのコーディネート連携をこれからは事務職員ができないか、学校事務職員の共同実施においても検討している。共同実施も業務改善の関わりの中で進められていくところもあります。ご関心をもつていただけたらと思いま

す。

先ほど述べたように、業務改善のキーマンは教頭先生だと思っています。校長先生のご指導が必要で

すし、さらにはこれから教頭先生になろうとしている先生に意識付けをしていただけたらと思いま

す。

ご静聴ありがとうございました。

ご静聴ありがとうございました。



休み時間に体力アップ『大好き』鉄棒』～先生や上級生も参加して～
(水戸市立梅が丘小学校)

研究部の目標と計画

平成29年度

・研究目標
・活動内容・事業

国語

重点研究部

生きてはたらく国語の力をはぐくむ授業の創造(第三年次)

部長 矢萩 賢一

一 第一回郡市部長研修会

- (一) 期日 五月二十六日(金)
- (二) 会場 教育プラザいばらき
- (三) 組織づくりと事業計画の検討
- (四) 講話 「国語科教育の現状と課題」

講師 県教育庁学校教育部

義務教育課指導主事

大越 茂先生

二 国語指導者筑波研修会

- (一) 期日 七月二十八日(金)
- (二) 会場 つくば市ホテル青木屋
- (三) 講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 菊地 英慈先生

三 手作りテスト研修会

- (一) 期日 八月一日(火)
- (二) 会場 教育プラザいばらき
- (三) 講師 県内指導主事

四 県芸術祭小中学校美術展覧会

- (一) 期日 十一月二十九日(水)
- (二) 会場 県民文化センター

五 第二回郡市部長研修会(予定)

- (一) 期日 二月中旬
- (二) 会場 教育プラザいばらき
- (三) 内容 研究のまとめと次年度の計画

社会

「かわわり」を深め、未来を創る力をはぐくむ
社会科学習

部長 大和田 栄

一 郡市部長研修会

- (一) 第一回 五月二十五日(木)
- (二) 第二回 二月中旬予定

二 郷土教育研修会(かすみがうら市)

- (一) 期日 八月二十二日(火)
- (二) 会場 あじさい館
- (三) 内容 研究発表・協議
- (四) 講師 茨城県県南教育事務所 学校教育課指導主事 岡田 浩先生

および巡見

三 ブロック別授業研究会

- (一) 中央ブロック 笠間市
- (二) 東北ブロック 北茨城市
- (三) 関東ブロック 鹿嶋市
- (四) 県南ブロック 守谷市
- (五) 県西ブロック 桜川市

四 研究推進委員研修会

- (一) 期日 八月九日(水) 午後
- (二) 会場 教育プラザいばらき
- (三) 講演 「次期学習指導要領の実施に向けての社会科学習指導の在り方」(仮)

〇講師 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 樋口 雅夫先生

五 各種研究大会への参加

- 〇全小社奈良大会 提案発表 ひたちなか市

理科

科学する面白さを感じながら、身の回りの事象とかかわっていく子どもの育成

部長 陶 慶一

本年度は理科教育の振興を目指し、以下の事業を行う。

一 理科実験実技研修会

- (一) 地区別実験実技研修会
- 〇東北・中央・関東地区
- (二) 科学教育研修会
- 〇県南・県西地区

二 児童生徒科学研究作品展

- (一) 地区展
- 〇期日 九月二十七日
- 十月十日
- 〇会場 県内五会場
- (二) 県展
- 〇期日 十月十二日
- 十月二十四日

三 発明工夫作品展

- (一) 地区展
- (二) 県展
- 〇会場 茨城県自然博物館

四 「いばらき理科アイテム」を使った授業研究会

- 各都市単位で実施
- 五 全小理茨城大会関連事業
- (一) 文部科学省講演会
- 〇期日 八月二十一日(月)
- 〇会場 茨城県総合福祉会館
- (二) 指導方法等研修会
- 〇一・二・三学期に実施

五 その他

- ※平成三十一年度茨城大会(ひたちなか市)開催に向けての準備を進める。

生活・総合

子供の未来を拓く生活・総合的な学習の時間の創造
「主体的・目的深い学びをめざして」

部長 内田 和子

この研究テーマのもと、地区別授業研究会等を実施する。

一 郡市部長研修会 五月・二月

二 役員研修会 七月・二月

三 地区別授業研究会

- 中央ブロック
- ・水戸市立笠原小学校
- ・大子町立だいでい小学校
- 県北ブロック
- ・常陸太田市立里美小学校
- 県東ブロック
- ・神栖市立波崎第四中学校
- ・土浦市立真鍋小学校
- ・稲敷市立新利根小学校
- 県西ブロック
- ・坂東市立七郷小学校
- ・結城市立絹川小学校
- 全国並びに関東地区小学校生
- 活科・総合的な学習教育研究協議会神奈川大会(横浜市)への参加

【期日】十一月一日～二日

【提案者】小美玉市立納場小学校

- 教諭 毛利 康孝先生
- 常陸太田市立里美小学校
- 教諭 萩谷 隆子先生

工 作 画 美
感性を豊かにし、創造する力を育む、図画工作・美術教育の在り方
部長 堀江 俊夫

育 体 健 保
「できる、わかる、かかわる」を保証する体育学習
部長 朝倉 美広

家 庭 技 術
「よい生活を送るため」課題を解決する能力と素養(態度)を育てる家庭科教育(中学校)・未来の創造者となるために必要な資質・能力を育む。家庭科教育(中学校)
部長 寺内 雅美

道 徳
自立した人間として、他者とよりよく生きようとする児童・生徒を育てる道徳教育
部長 篠瀬 浩幸

校 園 学 図 書 館
確かな学力と豊かな人間性をはぐくむ学校図書館
「学習リテラシー」情報センター・読書センター機能のさらなる充実に努めて
部長 添田 智

重点年の本年度は、歴史と伝統ある茨城県教育研究会図画工作・美術教育研究会大会県北日立大会を開催する。この大会をメインに次の事業を実施する。

一 郡市部長会・研修会

・五月二十六日 県陶芸美術館

二 夏季実技研修会

(一) 期日 八月一日(予定)

(二) 会場 茨城大学附属小学校

(三) 講師 群馬大学教育学部教授 林 耕史先生

三 研究調査委員会(最終報告会)

・八月一日(予定) 茨城大学附属小

四 第五十回 県教育研究会図工・美術教育研究県北日立大会

(一) テーマ 「心のひびきたし あけて カラフル」

(二) 期日 十月二十日

(三) 会場 日立市立榎形小学校、日立市立十王中学校、他

五 第五十七回 関東ブロック造形教育研究長野大会への参加

(一) 期日 十一月十七・十八日

(二) 分科会担当 県西・県南地区

六 県芸術祭小中学校美術展覧会

(一) 期間 十一月二十九日

十二月三日

(二) 会場 県民文化センター

七 部報第四十七号の Web 掲載

一月

一 第一回郡市部長研修会

(一) 期日 五月三十日

(二) 場所 教育プラザいばらき

(三) 内容

○平成二十九年度役員選出

○二十九年度事業計画、実技研修会及び授業研究会の地区

の発表担当地区の確認

○再来年度の体育実技研修会及び授業研究会の地区決定

二 研究推進委員研修会

(一) 期日 六月三十日

(二) 場所 教育プラザいばらき

(三) 内容

○二十九年度の事業及び学校体育研究協議会開催の確認

○関東中学校保健体育研究協議会開催の確認

(四) 研修会講師：茨城県教育庁 学校教育部保健体育課 指導主事 塚田 勝之先生

三 体育実技研修会

・県南・県東

・中央 水戸市立大場小学校

四 授業研究会

・中央 水戸市立大場小学校

五 学校体育研究協議会

(一) 期日 二月二十日

(二) 場所 県教育研修センター

(三) 内容 講演会及び研究発表会

平成三十一年度関東ブロック中学校技術・家庭科研究会、平成三十二年度関東ブロック小学校家庭科研究会に向け、全地区で研究を推進する。

一 郡市部長研修会 五・六・二月

二 郡市研究推進委員研修会 六・八・二月

三 いばらきものづくり教育フェア

(一) 木工チャレンジコンテスト 筑西市立下館南中学校

(二) アイデアバッグコンクール 筑西市立下館南中学校

(三) おべんとうコンクール 小美玉市立小川北中学校

(四) いばらきロボットコンテスト 日立市立駒王中学校

(五) 児童・生徒作品コンクール イオンモール水戸内原

(六) 創造アイデアロボコン つくば市立谷田部東中学校

四 第五十六回 関東ブロック中学校技術・家庭科研究会新潟大会参加

十一月十四・十五日

提案発表「材料と加工に関する技術」、「衣・住生活と自立」

五 第五十四回 全国小学校家庭科教育研究大会石川大会参加

十一月十六・十七日

提案発表「A 家庭生活と家族」

今年度、関小道茨城大会(会場 校)ひたちなか市立市毛小学校)開催に向けて、郡市部長並びに研究推進委員研修会を計七回、関プロ組織部長・副部長研修会、郡市部長研修会各一回実施し、会場校とともに準備を進める。

また、平成三十一年度開催予定の関中道茨城大会開催の準備にあたる。

一 関東ブロック組織部長副部長研修会

二 郡市部長研究推進委員研修会

三 郡市部長研修会

九日 豊島区立西池袋中学校

四 全中道関中道東京大会(十一月九日) 関小道茨城大会(十一月十七日) ひたちなか市立市毛小学校

各分科会提案者

(中央) 等間小 菊田千河子教諭

(県北) 山田小 関山 徹教諭

(県東) 玉造小 石川夕香里教諭

(県南) 中村小 菊地 淳子教諭

(県南) 春日学園義務教育学校 渡邊 裕子教諭

(県西) 絹西小 中山 尚美教諭

六 その他

(一) 全小道夏季中央研修講座

(二) 全中道道徳教育推進教師育成講座

本年度は、研究主題に迫るために、左記の事業を実施する。

一 郡市部長研修会

(一) 期日 第一回 五月二十四日 第二回 二月

(二) 会場 教育プラザいばらき

(三) 茨城県学校図書館研究大会(県高校教研図書館部と共催)

(一) 期日 七月二十八日

(二) 会場 教育プラザいばらき

三 第三十四回 関東地区学校図書館研究大会群馬大会

(一) 期日 八月八日、九日

(二) 会場 群馬県安中市松井田文 化会館

(三) 発表校 小一校、中一校

四 第五十五回 茨城県小・中学校読書感想文コンクール

(一) 地区審査 九月、各郡市で

(二) 中央審査

○期日 第一回 十月十三日 第二回 十月二十五日

五 第六十三回 青少年読書感想文全国コンクールへの参加

刊(二月)

六 読書感想文集第四十八号の発行

第三十一年度茨城県読書感想文コンクール

・地区集約・中央審査 一月

特別支援
一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方をめざした教育活動の推進
部長 榊原 利光

特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、一人一人の「生きる力」を培うための教育を充実させるため、教員の専門性や指導力の向上を目指した研修や関係機関および地域社会との連携を深める教育活動を推進していく。

生徒指導
いじめや不登校を出さない積極的な生徒指導の在り方
部長 白石 力

本年度は、生徒指導の基本となる「一に予防・二に予防・三に予防」の視点から積極的な生徒指導を進めていく。そこで「いじめや不登校を出さない積極的な生徒指導の在り方」を研究テーマとした。重点年度でもあるので、全県を挙げてより実効性のある生徒指導の研究を深めていきたい。

学校事務
活力ある学校づくりを支える学校事務の在り方
部長 和田 雅彦

研究主題の解明を図るために、本年度は左記の事業を実施する。

一 郡市部長会・研修会
(一)郡市部長研修会
○第一回郡市部長研修会
・期日 五月二十五日(木)
・場所 教育プラザいばらき
・内容 研究主題・事業計画など

○第二回郡市部長研修会
・期日 二月
・場所 教育プラザいばらき
・内容 事業報告・成果と課題
次年度研修計画など

学校健康
主体的に生きるための学校健康教育の在り方
部長 川原井勝雄

本年度は次の五事業を実施する。

一 郡市部長会並びに研修会 五月
講話「学校健康教育の現状と課題」
講師 県教育庁学校教育部保健体育課健康教育推進室長
山口 修 様

二 役員・研究推進委員研修会 六月
講話 未定
講師 未定

三 ブロック別研究協議会 十一月
(一)県北 北茨城市 日立市
(二)県東 鹿嶋市 行方市
(三)県西 桜川市 古河市 下表市

その他の研究部
子どもの自主性・自立性を育む社会に開かれた教育課程の編成
部長 増田 年男

一 活動内容
本教育研究会の活動方針、「研究目標」の変更を受け、昨年度、研究主題の見直しを行った。「いばらき教育プラン」の基本テーマのキーワードを重要視し、研究主題に取り入れることで本県の独自性を表現した。

次期学習指導要領が示され、今年度、周知・徹底の時期となる。各学校においては、十分な理解を進めるとともに、特色ある教育活動の展開を推進することが大切である。

一 知的障害教育部会

- (一)各ブロックでの担当者研修会
- (二)全特連全国大会・関プロ大会への参加

二 自閉症・情緒障害教育部会

- ・各ブロックでの担当者研修会
- 三 難聴・言語障害教育部会
- (一)県難聴・言語障害学級担当者夏季研修会
- (二)各ブロックでの担当者研修会
- (三)全難言全国大会への参加
- (四)研究集録発行

四 広報啓発部会

- (一)「いばら五十号」の発行
- (二)ナイスハートふれあいフェスティバル事業
- 学習発表会(十一月八日)
- 作品展(十二月七日～十一日)

五 研究調査部会

- ・中学校卒業生進路実態調査

一 第一回郡市部長会議及び研修会

- (一)期日 五月十六日(火)
- (二)会場 教育プラザいばらき
- (三)内容
- 組織づくり・事業計画
- 講演「楽しい経営のために」

二 役員会

- (一)期日 十一月上旬
- (二)会場 教育プラザいばらき
- (三)内容 県研修の運営
- 三 県生徒指導研修会
- (一)期日 十一月二十二日(水)
- (二)会場 教育プラザいばらき
- (三)内容 実践発表・協議・講演

四 第二回郡市部長会議及び研修会

- (一)期日 一月二十六日(金)
- (二)場所 教育プラザいばらき
- (三)内容 反省と次年度の準備

二 県北ブロック研究協議会等

- (一)運営委員会
- 第一回 六月
- 第二回 七月
- 第三回 十月
- 第四回 十二月

三 茨城県学校事務研究協議会

- (一)開催担当 県北ブロック
- (二)期日 一月二十六日(金)
- (三)場所 常陸太田市 生涯学習センター

四 「学校事務研究部のあゆみ」

- 作成：各校へメール配信

三 ブロック別研究協議会

- (一)県北 北茨城市 日立市
- (二)県東 鹿嶋市 行方市
- (三)県西 桜川市 古河市 下表市

四 郡市部長会並びに研究推進委員研修会

- 一月 一月
- 講話 未定
- 講師 未定

五 郡市部長研究協議会

- 一月 一月
- (一)ブロック別研究協議会報告
- (二)本年度の事業の反省とまとめ
- (三)次年度の事業計画と立案

算数・数学
「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指して
部長 川又 宏文

研究主題のもと、算数・数学教育の在り方について追究する。

一 研究協議会並びに研修会
(一)第一回 五月二十六日(金)
○事業計画及び研究主題の検討
(二)第二回 二月

二 学習指導法研究協議会

(一) 公開授業及び講演

期日 六月二十三日(金)

ひたちなか市立前渡小学校
ひたちなか市立大島中学校
文部科学省 国立教育
政策研究所学力調査官
佐藤 寿仁先生

(二) 公開授業及び研究発表・協議

期日 十一月十日(金)

常総市立豊岡小学校
常総市立水海道中学校

三 五ブロック別指導法研修会

音楽

共に感じ
共に楽しみながら
心むすぶ音楽を求めて
部長 川井 洋子

新しい研究主題のもと、昨年度
ブロック研究会が行われた。今年
度はその検証をしながら、研究主
題の具現化のために各専門部で研
究を推進していく。

【主な事業計画】

一 郡市部長研修会 五月・二月

二 研究推進委員会 六月十五日

三 実技研修会・指導法研修会

(一) 歌唱指導法研修会 六月

(二) 器楽実技研修会 八月

四 茨城県芸術祭小中学校合唱合

奏大会(教育庁文化課主管)

十一月二十一日(中学校)

十一月二十二日(小学校)

五 茨城県リコーダーコンテスト

フェスティバル 二月十六日

六 小学校管楽器教育研究会 十一月五日

英語

コミュニケーションへの意欲と
能力を高め、思いや考えを豊か
に伝える力の育成
部長 皆川 澄雄

本年度は研究テーマを継続し、
「小・中学校の英語教育の滑らか
な接続により、主体的な学びを育
てる」と副題を定め、研究を推進
する。

一 郡市部長、専門委員(小学校・

中学校) 合同研修会

(一) 五月三十日(火)

(二) 二月中旬予定

二 英語インタラクティブフォー

ラム各都市・各地区・県大会

・ 県大会 八月二十二日(火)

・ 筑波学院大学(つくば市)

三 第六十九回高円宮杯全日本中

学校英語弁論大会茨城県大会

・ 期日 十月五日(木)

四 茨城県教育研修センター

・ 第四十一回関プロ長野大会

・ 期日 十一月十七日(金)

特別活動
自主的・実践的な集団活動を通して、
よりよい人間関係を築こうとする態
度を育む特別活動の在り方
部長 大高 美子

児童生徒に身に付けさせたい力

として「よりよい人間関係を築こ

うとする態度」に焦点を絞り、各

都市で研究を進めていく。

一 第一回郡市部長研修会

(一) 期日 五月二十四日(水)

(二) 会場 教育プラザいばらき

(三) 内容 組織づくり・研究テーマ検

討・研究協議会担当確認

二 研究推進委員会

来年度研究協議会を開催する
県南ブロックを中心に研究を進
める。(ブロック開催)

三 研究協力校による研究(通
年)

研究協議会の発表校を中心に
実践研究を進める。

四 第二回郡市部長研修会(二
月)

(一) 次年度の事業計画等

情報教育
情報や情報手段を主体的に活用
していくために必要な情報活用
能力の育成
部長 志賀 正章

一 郡市部長研修会

・ 活動方針及び内容の確認等

二 統計教育関連事業

○統計グラフコンクール

・ 実施説明会 六月八日 県庁

・ 指導者講習会 六月十四日

・ 都市審査会 八・九月

・ 地区審査会 九月

・ 県審査会 九月二十日

・ 県入賞作品展 十二月

・ 県コンクール表彰式 十二月

・ 一月十七日 県庁

三 放送教育関連事業

○第三十四回NHK杯全国中学

校放送コンテスト茨城大会

・ 六月二日 NHK水戸放送局

四 視聴覚教育関連事業

・ 県視聴覚教育振興会研修会

キャリア教育
社会的・職業的自立に向け
たキャリア教育の在り方
部長 井坂 健一

「小学校からの発達の段階に
じた体系的な基礎的・汎用的能力
の育成を通して」をサブテーマと
し、次に挙げる事業の実施を通し
て研究を深め、更なる充実を図っ
ていく。

一 茨城県教育研究会キャリア教

育発表大会を、銚田市立銚田南

中学校で、十一月に開催し、授

業公開・協議会を実施する。

二 各都市で夏季研修会及び研究

発表会を実施する。

三 県版「中学生活と進路」を編

集し、内容を充実を図る。

四 高校入試に関するアンケート

調査を、教育情報ネットワー

クのアンケート機能を活用して実

施し、集計する。

学級経営
一人一人が輝く学級経営
部長 角谷 直人

一 郡市部長研修会

(一) 第一回 五月三十日(火)

○平成二十九年年度組織の編成

○平成二十八年度事業等報告

○平成二十九年度茨城県学級

経営研究部研究テーマ作成

○平成二十九年度事業計画案

○その他申し送り事項確認

(二) 第二回 二月(予定)

事業報告及び事業計画、引継

ぎ事項等について協議
二 次年度事業予定

(一) 郡市部長研修会

(二) 郡市部長・研究推進委員合同

委員会

(三) 各ブロック別研修会

(四) 学級経営研究部研究発表会

(五) 学級経営研究部研究紀要発刊

人権教育
人権尊重の精神の涵養を
目指す人権教育の推進
部長 森田 聡

本県における人権教育の推進の
ために、次の事業を行う。

一 第一回郡市部長研修会

(一) 期日・会場

○五月二十九日(月)

○教育プラザいばらき

(二) 内容

○本年度の組織づくり及び

事業計画作成

○講話

・ 演題「社会に生きるLGBT」

・ 講師 LGB T活動家

滑川 友理先生

二 第二回郡市部長研修会

(一) 期日・会場

○二月中旬予定

○教育プラザいばらき

(二) 内容

○事業報告及び次年度の計画

○講話



三校合同宿泊学習（土浦市立第二小学校）

支部だより

・研究目標
・事業計画

水戸市

日下部秀雄

水戸市教育会は、会員数千三百七十三名で組織され、二十四研究部と三事業部で構成される。「一人一人の確かな学びと夢を実現する水戸スタイルの教育」を推進し、幼児児童生徒に、未来を主体的に切り拓く力を育むことを目指す。

本年度の主な事業（三事業部）

- 一 二十四研究部による研究推進
- 二 教育研究発表大会の実施
- 三 市総合教育研究所との共催研修・プロジェクト研修の推進
- 四 教育講演会の実施
- 五 研修視察・県外派遣の実施
- 六 論文募集による研究奨励
- 七 本教育会「会報」の発行
- 八 研究紀要（実践収録）の発刊

笠間市

井坂 守

本教育会は、小学校十校、中学校五校と義務教育学校一校、会員数三百七十四名である。全会員の主体的な研究活動の推進により、研究目標の具現化に努めている。

本年度の研究目標

学習指導要領が目指す姿を踏まえ、社会に開かれた教育課程の実現に向けた研究を推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。

本年度の主な事業

- 一 夏季教育研究発表会（九部会）
- 二 教育実践発表会（全会員参加）
- 三 会報・研究紀要の発行
- 四 児童生徒の教育振興

- 児童生徒美術展
- 小学校陸上競技大会等

ひたちなか市

廣瀬 佳久

本市教育研究会は、小中学校二十九校、会員数七百九十五名で組織されている。学校教育振興のためのスローガン「夢・感動・笑顔」の実現を目指して、主体的・実践的な研究活動に取り組んでいる。

本年度の主な事業

- 一 夏季研究協議会（十一部会）
 - 二 教育講演会（四年次）
 - 三 授業研究・実技研修等の開催
 - 四 小中連携事業の推進
 - 五 市教育振興大会の開催（共催）
 - 六 「指導と評価の計画」の実践
 - 七 児童生徒の教育の振興
- インタラクティブフォーラム
 - 小学校陸上記録会
 - 小中学校音楽会 等

常陸大宮市

平塚 寿夫

本市教育研究会は、小学校十一校、中学校五校、会員数二百六十名で組織されている。今年三月に次期学習指導要領が公示されたことを受け、活動方針の中に「主体

的・対話的で深い学び」を盛り込み、市全体で取り組むこととした。

本年度の主な事業

- 一 重点研究部の指定
- 二 研究集会（研究発表）の開催
- 三 教育講演会の開催
- 四 教育研究会指定校公開授業
- 五 研究論文助成
- 六 小学校陸上競技会
- 七 小中学校音楽会
- 八 インタラクティブフォーラム
- 九 「手をつなぐ子ら」関連事業
- 十 会報誌「清流」の発行 等

那珂市

小室 信之

本市研究部は、小学校九校、中学校五校、会員数三百五名で組織されている。本市が推進している「小中一貫教育」は、三年目を迎える。今年度は、研究会の目標を「本市小中一貫教育推進の趣旨並びに次期学習指導要領改善の方向性を踏まえた教育を推進する」と改め、①義務教育九年間を見通し、「生きる力」の育成に向けた研究の推進、②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の二点に重点を置く。

今年度の主な事業

- 一 市教育研究集会（八月三日）
- 二 市指定研究発表会（十一月一日） ばらの学園（菅谷西小・五台小・第一中）

小美玉市

羽鳥 文雄

本市研究会は、幼稚園六園、小学校十二校、中学校四校、会員数三百四十五名で組織され、二十三の研究部と三つの専門部で構成されている。各部会は、「確かな学力とたくましい体をもち郷土を愛する心豊かな人づくり」を目指し、実践的研究や実践的実践に取り組んでいる。

本年度の主な事業

- 一 研究発表会（七月三十一日）
- 二 教育講演会（八月・一月）
- 三 指定研究校（玉里小・美野里中・堅倉幼）
- 四 会報・研究紀要の発行
- 五 教育論文の募集
- 六 児童生徒の教育振興（陸上記録会・音楽のつどい）

東茨城郡

池田 晃一

本研究会は、茨城町・大洗町・城里町の小中学校十七校、会員三百六十七名で構成され、二十二研究部と一専門委員会が本年度の研究目標「一 学ぶ意欲を向上させる」「二 思いやりの心・感謝の心を育み、健やかな体を育てる」「三 創意ある教育活動を展開する」ことを目指して実践的な研究活動に取り組んでいる。

本年度の主な事業計画

- 一 各研究部研修会等の開催

二 郡教育研究発表大会の開催

八月四日(城里町会場)

七分科会(郡方式による重点研究部)

大会記録集の刊行

三 各町指定校による公開授業

那珂郡

原田 薫

本研究会は、小学校六校、中学校二校、会員数二百十五名で組織されている。全会員が自主的・実践的な研究活動を推進し、教職員の資質・能力の向上と学校教育の充実を目指して活動している。

主な事業計画

- 一 各研究部による研究実践
二 教育研究集会(八月三日)
三 教養部研修会(八月三日)
四 現職研修(八月十日)
五 陸上記録会(九月二十八日)
六 音楽会(十月二十七日)
七 教育論文募集
八 研究指定校発表会(十一月八日)

東海村立照沼小学校

九 教育振興大会(二月十六日)

久慈郡

野上 正人

本研究会は小学校七校、中学校四校の百五十四名の会員で組織され、三つの専門部と二十二の研究部を設けている。自主的・実践的な研究活動を推進し、町の実情に即した郷土愛の教育、心のふれ合

う教育活動を展開している。

主な事業計画

- 一 各研究部計画による研究実践
二 教育研究集会(八月十八日)
三 研究指定校の委嘱と発表
四 初任者研修会の運営
五 「教育天子」の発行(年一回)
六 教育活動推進のための事業
○小・中学校陸上競技大会
○小・中学校音楽会
○教育美術展
○郷土研究発表会
○統計グラフィコンクール等

日立市

鈴木 克彦

本研究会は、小学校二十五校、中学校十六校(県立中含む)、特別支援学校一校、総会員数千二十一名で組織され、二十二研究部と三特別委員会が構成されている。

研究目標を「一人一人が未来を切り拓き、自立的に生き抜く力を育む教育の研究と実践」として、五つの研究重点のもと、各種事業に取り組んでいる。

主な事業計画

- 一 各研究部計画による研究実践
二 専門部員研修会(五月二日)
三 教育振興大会(八月四日)
四 総合発表会(八月十七日)
五 先進校等視察(二学期中)
六 教育論文募集(十一月上旬)
七 小中学校音楽会(十一月中旬)

常陸太田市

飯田 広志

本市教育会は小学校十三校、中学校七校、会員三百二十七名で構成され、「一人一人の個性を生かし、よさを認め、鍛え、励まし、夢や希望を育む教育を推進する」を目標に実践研究を進めている。

主な事業計画

- 一 各研究部計画による研究実践(十三研究部を重点指定)
二 教育会報発行(七月)
三 教育研究発表会(八月)
四 教育振興大会(共催十二月)
五 教育論文募集
六 児童生徒への教育奨励事業
○科学研究・発明工夫作品展
○手をつなぐ子らの作品展
○小中学校音楽会
○常陸太田市優秀作品展

高萩市

征矢 眞一

本教育研究会は小学校四校、中学校三校、会員数百五十三名で組織され、二十二の研究部で構成される。「新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、『社会に開かれた教育課程』の実現に向けた研究を推進するとともに、『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善に努める。」を研究目標として、感性と郷土性を併せもつ「萩っ子」の育成を目指し、各種事業に取り組んでいる。

本年度の主な事業計画

- 一 各研究部実践と論文募集
二 高萩市・北茨城市教育研究発表会(八月十八日)
三 教育振興大会(十一月二十五日)
四 市教育委員会との共催事業開催

北茨城市

櫻村 宣行

本研究会は、小学校十一校、中学校五校、会員数二百七十八名で組織され、二十二の研究部と六つの専門委員会が構成されている。昨年度に引き続き、本年度も「各学校の課題を明確にし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開するための研究に努める」を研究目標とし、全会員が主体的・協働的に研究活動を推進している。

主な事業計画

- 一 高萩市・北茨城市教育研究発表会(八月十八日)
二 教育実践事例の募集
三 「みんなで教育を考えるつどい」の開催(十一月十七日)
四 児童生徒への教育振興
○小・中学校音楽会
○小・中学校美術展覧会
○小・中学校陸上記録会 等

鹿嶋市

大槻 啓子

本研究会は、小学校十二校、中学校五校、会員数三百八十五名、二十四研究部と八教養部で組織さ

れ、「地域とともにすずめる特色ある学校づくり」をテーマとし、生きる力を育み、時代の要請に 대응ることのできる「鹿嶋っ子」の育成を目指し取り組んでいる。

- 主な事業計画
一 研究部・教養部の研修会
二 教育研究発表会(個人・学校)
三 授業改善プロジェクトの推進
四 児童生徒への教育振興
○小中学校陸上記録会
○音楽発表会・児童生徒作品展
○インタラクティブフォーラム
○特別支援学級校外学習

神栖市

野口 桂子

本会は、小学校十五校、中学校八校、会員数五百八十名で組織され、二十三の研究部と七つの教養部、二つの特別委員会が構成され、二つの特別委員会が構成され、教職員としての資質の向上と学校教育の振興及び社会文化の発展に貢献することを目的としている。

本年度の主な事業

- 一 研究部・教養部の研修会
二 教育研究発表会・教育講演会
三 市統一テスト
四 市教育会指定研究発表会
五 児童生徒への教育振興
○小中学校陸上記録会
○科学研究作品展
○音楽発表会
○児童生徒作品展
○文集「神栖の子」の発行等

銚田市

大原 甚一

本市教育会は四幼稚園、十六小学校、四中学校からなり三百五十二名の会員で構成されている。

幼小中連携の取組と主体性を育む教育活動に重点を置き、市の教育目標実現に向け各研究部が実践研究に取り組んでいる。

- 一 各研究部・教養部研修会
二 講習会(六研究部)
三 授業公開(二園・十一校)
四 教育研究発表会(八月四日)
五 児童生徒への教育振興
六 児童生徒音楽会
七 特別支援学級合同校外学習
八 学習指導研究会(指定校)
九 人権教育講演会・人権作品展
十 幼稚園児高齢者ふれあい事業

行方市

片岡 満

本教育会は、行方市学校適正配置計画が完了し二年目を迎え、幼稚園三園、小学校四校、中学校三校、会員数百九十名で組織されている。

教職員としての自覚と責任をもち「研究は広い視野に立ち、教育課題を的確に捉えてその解決を図るために推進する」という方針の下、会員が一九となつて取り組んでいる。

本年度の主な事業
一 各研究部並びに各教養部研修会
二 行方地区教育研究発表会
三 期日 八月三日(木)
四 会場 潮来市立日の出小学校
五 潮来市立日の出中学校

潮来市

市川 隆男

本会は、幼稚園二園、小学校六校、中学校四校の会員数二百三名からなり、七つの教養部と二十二の研究部で構成されている。

県教育研究会の活動方針を受け、教職員の資質・能力の向上と新しい時代を創造する力を備えた児童生徒の育成を目指している。

本年度の主な事業
一 各研究部研修会
二 小学校親善陸上記録会

土浦市

廣原 高志

本市教育研究会は、幼稚園五園、小学校十九校、中学校八校の会員六百九十二名で組織されている。

平成三十年度には、小学校三校と中学校一校が合併し、新治学園義務教育学校が新設される。「社会の変化に主体的に対応し、心豊かでたくましく生きる資質や能力の育成を図る」を今年度の研究主題とし、新学習指導要領の主旨と小中一貫教育のねらいを念頭に、二十三研究部で活動している。

石岡市

山田 典明

本年度の主な事業
一 各研究部主任会
二 全員研究協議会(八月四日)
三 小中学校地区音楽会
四 市教育総会の開催(優秀研究論文の発表等)

本市教育研究会は、幼稚園一園小学校十九校、中学校六校、給食センター二所で構成され、会員数は四百四十九名である。「社会に開かれた教育課程の実現」に向けた実践的な研究を通して、教職員の資質・能力の向上と児童生徒の「生きる力」の育成を目指している。

本年度の主な事業
一 各研究部研修会
二 児童生徒作品展、コンクール発表会、フォーラム
三 研究発表会(八月四日)
四 研究指定校発表会
三村小・吉生小・柿岡小
城南中(十・十一月)

龍ヶ崎市

酒井 和美

龍ヶ崎市教育研究会は、小学校十七校、会員数三百八十名で組織されている。各研究部の研究活動や教研主催の事業を通して、会員の資質・指導力の向上を図り、児童生徒に「生きる力」を育むことを目指して、努力を重ねている。

牛久市

志賀 英人

本年度は、特に授業研究に力を入れ、「主体的で対話的な深い学び」のある授業の充実を目指す。本年度の主な事業
一 教育研究発表会の開催
二 教育論文募集による研究奨励
三 研究紀要の発行
四 教育講演会の開催
五 児童生徒文詩集「わ」の発行
六 小中学校音楽祭の開催
七 市民文化フェスティバル参加

牛久市教育研究会は、幼小中十六校、会員四百七名、二十三の研究部で構成されている。一人残らず質の高い学びを保障することを目指し、教職員の資質および学校教育力の向上に取り組んでいる。

取手市

柏 孝子

本市教育研究会は、一幼稚園、十四小学校、六中学校、四百六十八名の会員で構成されている。

研究テーマを「知性に富み心身ともに健全な児童生徒の育成」とし、二十二の研究部と八事業部で全会員が自主的・実践的な研究に取り組んでいる。

本年度の主な事業
一 市教育研究会指定の授業研究会の開催
二 各中学校区毎の研修会の開催
三 研究部毎の研修や行事の開催

つくば市

田村実枝子

本市教育研究会は、十六幼稚園、三十六小学校、十四中学校、

本市教育研究会は、十六幼稚園、三十六小学校、十四中学校、

義務教育学校、並木中等教育学校、会員千三百三十九名で組織され、二十四研究部で研究に取り組んでいる。「未来をひらく、社会力豊かな幼児・児童・生徒の育成」を目指し、着実な研究活動を推進し、学校力と教師力の向上を図っていく。

本年度の主な事業

- 一 教育研究発表会・講演会の開催
- 二 教育研究論文募集・発表会
- 三 研究指定幼稚園発表会
- 四 幼児・児童・生徒の発表会の実施

・つくば市学園合唱フォーラム
 ・英語インタラクティブフォーラム等

守谷市

笹本恵美子

本市研究会は小中十三校、会員数三百五十一名で組織している。

一 研究目標

「新しい時代に対応し、たくましく生きる力を育む教育実践の在り方」(「保幼小中高一貫教育の更なる発展をめざして」)

二 事業計画

(一)各研究部の研修の充実

○授業研究重点研究部

社会、算数・数学、理科等

(二)主権事業の継続実施

○基礎学力調査テスト

(小一・二年生対象、国算)

○小中学校音楽会

○特別支援教育「つばさ展」
(三)市指定発表会

○高野小 ○郷州小

稲敷市

篠原 輝一

本研究会は幼稚園・認定こども園五園、小学校十校、中学校四校で組織し、「生きる力のある園児・児童・生徒の育成」をテーマに研究・実践に取り組んでいる。

本年度の主な事業

- 一 重点研究部会(八)、特別研究部会(七)における研修
- 二 幼小中連携事業(中学校区毎)
- 三 全員研修会の開催(全体会・講演会・研究部会)
- 四 研究委嘱校発表会(浮島小・あずま東小)
- 五 教育論文の募集及び論文発表
- 六 園児・児童・生徒への奨励事業
- 七 研究紀要の発行

かすみがうら市

市川 一典

本研究会は、小学校八校、中学校三校で構成され、「教職員の向上を図り、児童生徒に生きる力を育むこと」を目指し、各研究部の研究活動や各種活動に取り組んでいる。

本年度の主な事業

- 一 重点研究部による研修
- 二 教育研究発表会
- 三 教育に関する講演会

四 教育論文募集と論文発表会
五 児童生徒に関わる活動

○小学校陸上競技記録会や音楽発表会の実施

○児童生徒参加の各種事業と文集の発行

六 研究集録の発行

ひばり町

富田 良一

本市教育研究会は、小学校十一校、中学校四校、幼稚園三園で組織し、「確かな学力と健やかな心身をもち、一人一人が自立する児童生徒の育成」をテーマに実践研究に取り組んでいる。

本年度の主な事業

- 一 各研究部の研究推進
- 二 幼小中一貫教育の研究実践
- 三 夏季一斉研修会(講演会)
- 四 研究委嘱校発表会
- 五 谷原小学校 ○板橋小学校
- 五 児童生徒の奨励事業
- 小中学校合同音楽会
- 科学研究作品展
- インタラクティブフォーラム
- 手をつなぐ子らの作品展
- 児童生徒文集「ひばり」作成

稲敷郡

田島 峰子

本研究会は、「個性と創造性に富み、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒・児童の育成」を研究テーマに、十九校で実践を推進している。

本年度の主な事業

一 各研究部の推進事業

- インタラクティブフォーラム
- 科学研究・発明工夫展
- 県芸術祭への参加・協力
- 手をつなぐ子らの作品展
- 統計グラフコンクール
- 二 研究委嘱校の発表会
- 阿見第二小学校
- 阿見中学校

三 各町村における研究発表会

○講習会・研究会開催と参加

○郡市理科実技研修会

北相馬郡

仲田 義弘

今年度の利根町教育研究会は、小学校三校、中学校一校、会員数八十名で組織され、「心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成をめざして」を研究主題として実践研究を進めている。

本年度の主な事業

- 一 教育研究に関する事業
- 各研究部による研修
- 夏季一斉研修会
- 研究発表会
- 「とね研だより」の発行
- 二 児童生徒を対象とした事業
- 小学校陸上記録会
- 音楽を楽しむ会
- 児童生徒の各種作品展
- 各種コンクール審査会
- 特別支援教育「つばさ展」

古河市

落合 悟

本市教育研究会は、市内小中学校三十二校と古河中等教育学校で構成され、「古河市の教育」の振興と児童生徒の健全な育成及び教職員の指導力の向上を目指して次のような取組を行っている。

本年度の主な事業

- 一 各教育研究部研修会
- 二 研究指定校による授業研究会(古河三小・古河四小・駒羽小・西牛谷小・八俣小・名崎小)
- 三 文化的・体育的行事の開催
- 小学校陸上記録会
- 小中学校音楽会
- インタラクティブフォーラム
- 小中学校合同校外学習
- 各種作品展
- 四 研究紀要の発行

結城市

瀧澤 晃

結城市教育研究会は、小学校九校、中学校三校および十四の幼稚園・保育園(所)の職員が「豊かな心を持ち、たくましく生きる子供の育成を図る」を研究目標にして、実践を進めている。

本年度の主な事業

- 一 教科・領域研究部の実践研究
- 二 夏季研修講座
- 三 作品展・発表会の開催
- 小学校陸上記録会
- インタラクティブフォーラム

- 児童生徒総合作品展
- 小中学校音楽会
- 手をつなぐ子らの発表会
- 人権作品集の刊行等
- 四 研究指定校の発表
 - ・上山川小・城西小

下妻市 中條 美恵

本市教育研究会は、小学校九校、中学校三校、幼稚園六園、会員数二百八十一名で組織されている。子供たちの夢や希望を育む教育を展開するため、自主的・実践的な研究を推進している。

- 一 本年度の主な事業
 - (一)各研究部活動の推進
 - (二)先進校への派遣研修の実施
 - (三)研修会・講習会の開催
 - (四)調査研究の実施
 - (五)研究紀要の刊行
 - (六)教育論文の募集
- 二 指定・希望研究の推進
 - 騰波ノ江小 ○上妻小
 - 大宝小 ○東部中 ○千代川中
 - 総上小 ○宗道小

常総市 岡野 克巳

本市教育研究会は、小中学校十九校、会員数三百九十五名で組織されている。本年度は子供たちが未来に夢をもち「生きる力」を育むための特色ある教育課程の実践研究と併せて、家庭・地域と連携した防災教育の充実に努める。

一 主な事業

- 各研究部の研修と授業研究
- 教育論文の研修と募集・審査
- 教育講演会の開催
- 小中学校音楽会の開催
- 児童生徒作品展の開催
- 防災教育委員会の開催
- 研究紀要等の発行
- 二 本年度の学校独自研究発表校
 - 水海道小・飯沼小・水海道西中・石下西中が研究発表を行う。

筑西市 山口 忠

一 本年度の目標
 いばらき教育プラン・学習指導要領の趣旨や内容に基づいた教育活動を推進し、学力の向上に向けて研究実践に努める。また、生徒指導を総合的に推進し、主体的・協働的に取り組むなど、自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」の育成に努める。

- 二 主な事業
 - (一)各教科・領域の実践研究
 - (二)小中一貫教育の推進
 - (三)指定研究発表
 - 竹島小 ○中小
 - 鳥羽小 ○下館南中
 - (四)教育論文の研修及び審査
 - (五)研究集録等の刊行

坂東市 小林 清

本研究会は、幼稚園、小学校十三校、中学校四校、会員数三百四十九で組織され、創意ある実践研究に取り組んでいる。

- 一 研究の重点
 - ・創意ある教育課程の実践と評価・改善
 - ・確かな学力の向上
 - ・心の教育の充実
 - ・教師としての確かな力量と総合的な人間力の充実
- 二 主な事業計画
 - ・各研究部研修会の開催
 - ・市指定研究発表会の開催
 - ・逆井山小 七郷小 岩井中
 - ・「坂東市魅力ある学校づくり推進事業」との連携

桜川市 藤田 正美

本研究会は、小学校十一校、中学校五校、会員数二百七十八名で組織されている。新学習指導要領の方針等を可能な限り先取りして、会員総意の下、主体的・協働的な研究活動を推進している。

- 一 主な事業
 - (一)各校、各研究部の研究推進
 - (二)学校運営研修会の実施
 - (三)小中一貫教育協議会の実施
 - (四)教育論文の募集・審査・表彰
 - (五)学力診断のためのテスト、全

国学力・学習状況調査結果の分析及び対策

- (六)科学研究作品展、音楽会
- (七)教育論文集・研究紀要刊行
- 二 指定授業研究会の開催
 - 権穂小 ○岩瀬小 ○岩瀬東中

結城郡 飯泉知那美

本研究研究会は、児童生徒一人一人が、輝く学校づくりに取り組んでいる。

- 一 研究目標
 - 自ら学び、豊かな心をもつ子どもを育成
- 二 事業計画
 - (一)研究指定校発表会の実施
 - 八千代町立東中学校
 - (二)各種研修会の実施
 - (三)研究紀要の発行
 - (四)教育論文の募集・審査
 - (五)県学力診断のためのテスト、全国学力学習状況調査の分析検討・対策
 - (六)各種作品展・小学校陸上記録会・音楽会等の実施
 - (七)実践報告会の開催

一 研究の重点

前年度までの成果や課題を検証・評価しその改善を図る。

- 二 主な事業
 - (一)各研究部・各校の実践研究
 - (二)小学校陸上記録会の実施
 - (三)中学校英語インターラクティブフォーラムの実施
 - (四)小中学校音楽発表会の開催
 - (五)各種児童生徒作品展の開催
 - (六)教育論文の募集・審査
 - (七)研究紀要の刊行

茨大附属 榎 守

附属学校園では大学と連携して理論・実践研究を推進し、その成果を公開研究会で発信している。

- 附属幼稚園
 - 幼児期に育ってほしい姿をどう捉えるか
- 公開研究会十一月二十一日(火)
 - 附属小学校
 - 未来をつくる子どもを育てる
- 公開研究会一月二十七日(土)
 - 附属中学校
 - 二十一世紀を生きるための「教養」を高める学びの創造

猿島郡 中島 照雄

本研究研究会は、境町、五霞町の小学校七校、中学校三校、会員二百四名で組織されている。

- 各研究部では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、研究テーマのもと実践研究に取り組んでいる。

○附属特別支援学校

アクティブ・ラーニング時代の授業づくり
 公開研究会二月十七日(土)



学びあい (常総市立水海道中学校)

視 点

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実

夢や希望に向かって頑張る、心豊かなたくましい生徒の育成

ひたちなか市立大島中学校
校長 廣瀬 佳久

本校では、これまで教育目標達成のために、キャリア教育の面からアプローチしてきた。キャリア教育を通して育成したい。

- ① 人間関係形成、社会形成能力
- ② 自己理解、自己管理能力
- ③ 課題対応能力
- ④ キャリアプランニング能力の四つの能力が、『主体的・対話的で深い学び』の実現に最も効果的と捉え、次の実践を進めた。

一 道徳の授業力向上を目指す

- 自己決定力やコミュニケーション力を培い生徒自ら生き方(キャリア)を決定できる資質能力を向上させる。
- ① 授業資料の共有(共同立案)
- ② 相互参観による授業力向上
- ③ OJT 研修の実施

二 授業・指導法の改善を目指す

- ① 学び合いの時間を確保し、生徒が自己決定できる機会やコミュニケーション(キャリア)を通して『主体的・対話的で深い学び』の実現を図る。
 - ② 基礎力定着・自己評価の時間(振り返り)を確保する。
 - ③ 授業に連動する家庭学習課題を設定し次時の学習に生かす。
 - ④ 校内研修の充実を図る。
- これらを通して「課題と評価」

の一体化を進め、生徒が「課題解決のプロセスが見える」「学び合いの活動が見える」「学んだ結果が見える」授業を展開する。

さらに、常に生徒が課題をもち、解決するために友達の意見を受け止め、自分の意見も根拠をもって話し合える、生徒が主役の授業づくりを進めていきたい。

確かな読みの力を育てる国語科の指導の在り方

太子町立黒沢小学校
校長 野上 正人

本校では、二十七年からの三年間、国語科を中心とした授業力の向上に取り組んでいる。

国語科における読み取る力は、文章を正確に読み、読んだことをもとに考えをもち、的確に表現する力であると考える。

本校の実態を見ると、読書活動には熱心に取り組む児童が多い。

しかし、長文を読むことに抵抗感をもつ児童が約六割おり、内容を正しく読み取ることや、自分の考えを的確に相手に伝えることなどについての課題も多い。

一 テーマ及びサブテーマ

◎ テーマ「確かな読みの力を育てる国語科の指導の在り方」

○ サブテーマ「言語活動を適切に位置づけた授業づくりとおして」

二 今年度のポイント

- (一)「読む力」を高める
 - ・ 心情・場面・考えを読み取る
 - (二)「考える力」を高める
 - ・ 自分の考えをもつ
 - (三)「表現する力」を高める
 - ・ 分かりやすく相手に伝える
 - (四)「書くこと」の指導
 - ・ 正しい文章・文字で表現する
- 三 具体的な取組
- (一) 校内授業研究の実施
 - ・ 一人一回以上の提案授業
 - (二) 基礎的・基本的な学力の定着
 - ・ チャレンジテスト、音読検定
 - (三) 学び方の指導
 - ・ 少人数の特性を生かした学習形態の工夫
 - (四) 言語活動の工夫
 - ・ 音読発表、群読発表

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実

神栖市立深芝小学校
校長 佐々木 均

神栖市では、平成二十五年度から学力向上プロジェクトの一環として、「神栖市授業スタイル」の研究を進めている。本校では昨年度まで以下の実践を進めてきた。

- ① 教師、児童の協働による学習計画づくり

↓ 教科の特性の理解や授業実践における共通点を見出し、系統性のある学習計画づくりを展開

- ② 「ラーニングスキル系統表」の

作成と活用

↓ 課題解決に必要な言語能力を身に付けるため、発達段階に応じた汎用性のある系統表の作成

③ 各教科での取組

〈国語科の例〉表現力を高めるための「語彙表」の活用
〈算数科の例〉説明する力を高める「具体的な言葉集」の活用
〈社会科・理科の例〉「学習の進め方」の活用

以上実践後の成果として、

- 学びたいことの明確化

○ 協働で学ぶスタイルの意識化が進み、児童が学ぶ楽しさを実感することにより、主体的な学習が展開されている。

さらに、本年度は課題である児童の「対話力の強化」を目指し、『考えを広げ深める対話力を育む国語科学習指導のあり方』目的を明確にした話し合い活動を通して「テーマ」に研究に取り組んでいる。アクティブ・ラーニングが一人歩きする昨今、地域や学校の実態に沿った指導スタイルの「自校化」、「自分化」を進めることで、深い学びの実現に迫っていきたい。

自分の思いや考えを表現できる児童の育成

取手市立六郷小学校
校長 鳥羽田 一夫

昨年度、国語科における授業力

ブラッシュアップ研修協力校として、指導力向上を目指して授業改善に取り組んできた。今年度は、その継続研修として、児童の表現力の向上と主体的、対話的な学びの実現に向けて実践を進めている。

一 課題解決型学習による授業

○学習の見直し

・単元全体の学習計画表

・本時の授業の流れの提示

「つかむ」「考える」「話し合う」「深める」「振り返る」

○適切な言語活動の位置付け

・本単元で身に付けさせたい力

の見極め

・確実に身に付けるための最適な言語活動の設定

・「くしよう」型から「くだろ

うか」型へ

○効果的な交流活動

・自分の考えを広げ深めるための交流

・必然性を考えて適切に設定

○振り返りの時間の確保

・この時間に何ができるように

なったか、身に付けた力の可

視化、蓄積

・次時へつなげるための思考

二 表現力につながる朝学習「六

郷つ子タイム」での補助的学習

○表現力向上プリント学習

○条件付き短作文指導

○読書時間の確保

国語科での取組を他教科でも実践し、また、児童が学びの実感をもつことができるよう、今後も授業改善に努めていきたい。

主体的に考え、表現することが
できる児童の育成

つくばみらい市立谷原小学校

校長 徳田 正則

本校では、平成二十七年より

市教育研究会及び市教育委員会の

研究指定を受け、標記の主題を掲

げ、算数科での研究を進めている。

本校児童の実態として、基礎

的・基本的な知識や技能の習得が

十分でないことが挙げられる。そ

のために、自分の考えを表現する

ことに苦手意識を感じている児童

も多い。「主体的・対話的で深い

学び」の実現は、まさしく本校の

研究がねらうところである。課題

解決のために、次の二点を中心に

取り組んでいる。

一 双方向の学びの場の設定

基礎的・基本的な知識や技能を

定着させるために、考えの交流を

目指した『双方向の学びの場』を設

定することを研究の柱とした。双

方向の学びとは、自分の考えを説

明・表現する交流活動である。交流

することで新しい見方や考え方に

出会ったり、分からないことを教え

合ったりすることが期待できる。

二 主体性の育成

双方向の学びを推進するために、思考過程が見えるノート指導と意図的な発問が重要と捉え、具体物や言葉、表などの効果的活用と、発問の事前吟味を大切にしてきた。まず自力での解決を目指し、意見の交流を通しながら、学びに対する意欲を高めることで、主体性の育成につなげたいと考えている。

生徒一人一人のよさを伸ばす授業づくり

常総市立水海道中学校

校長 岡野 克巳

本校では、「心豊かで、自ら考

え、行動できる生徒」を本気にな

れば何かが変わるを学校教育目

標として掲げ、「自ら学び、確かな

学力のある生徒」を目指し、次の

二点を重点として研究に取り組

んでいる。

一 主体的・対話的で深い学びに

向けた授業スタイルの実践

○「学習課題の提示」「グルー

プ活動」「まとめを書く活

動」の共通授業スタイルの質

を高める実践

○ピア・サポート活動を生かし

た「学び合い」学習の充実

○G Tを招聘しての特別授業や

体験的な学習の実践

二 学びのユニバーサルデザイン

の視点を取り入れた授業づくり

○すべての生徒が学びに参加で

きる授業構成の工夫（課題提

示及び学習のまとめ方等）

○すべての生徒がわかる喜びを

実感できる多様な教材・教具

の工夫

○視覚に訴え、思考を深めるこ

とができるような板書の工夫

○答えがわかる授業から、意味

がわかる授業に変えるための

発問の工夫

○道徳や特別活動、及び総合的

な学習の時間における話し合

い活動等の言語活動の充実

各教科担任が授業づくりの視点

を共有し、一人一人の生徒の姿に

学ぶことで、より質の高い教育実

践を目指し努力し続けることが大

切である。生徒が本気になる学

校づくりを進めていきたい。

二十一世紀を生きるための

「教養」を高める学びの創造

茨城大学教育学部附属中学校

校長 榎 守

本校では、「生きて働く知識」

や「見方・考え方、価値観」、

「表現力・実践力」などを要素とする「二十一世紀を生きるための『教養』」こそが自己の生き方の基軸になると捉え、各教科、道

徳、総合的な学習の時間、特別活動の時間をはじめとする全ての教育活動を通して、それを高めるための学びの創造を目指してきた。研究に当たっては、各教科等の特性に応じた具体的な手立てを講じてきた。

- ① 学ぶ意欲を喚起する「課題」
- ② 学びの見直しをもつ「ガイダンス」
- ③ 能動的な学びを創る「探究的な学び」
- ④ 自己の学びを支える「協同の学び」
- ⑤ 一人一人を伸ばす「指導と評価」

今年度は表題研究の四年目にあたり、これら手立ての有効性について評価・考察を進めている。日々の学校生活を通して、生徒の誰もが自分自身の成長を実感できるようにしていきたい。その実現のためには、生徒一人一人が「なりた自分」を設定するとともに、達成への見直しをもちながら「探究的な学び」や「能動的な学び」、「協同の学び」などを重ねることが大切であると考えている。

本校の研究が「主体的な学び」や「対話的な学び」を具現化し、「深い学び」の実現につながるよう、今後も授業づくりを進めていきたい。



組織活性化委員会
増田 年男

次の二つの取組を実施し、本会の組織活性化に必要となる事項について検討する。また、平成三十三年度活動方針案を作成する。

一 活動内容

○Web機能を活用したアンケート調査の実施

県教育研究会を組織する県内の各学校にアンケート調査を実施して集約し、教育課題の解決や活動内容の改善充実のための検討資料とする。

○課題検討委員会の設置

授業改善のための課題等(少人数指導、「特別な教科 道徳」等)及び県教育研究会活動の活性化について協議を行う。

二 活動計画

- 第一回委員会(五月三十日)
- ・課題検討委員会(六月二十八日)
- ・課題検討委員会(七月七日)
- 第二回委員会(一月十日)
- 第三回委員会(二月十三日)

会報・紀要委員会
川井 洋子

本委員会は、県教育研究会の研究目標及び研究の重点に基づいて展開されている、各研究部・支部等の活動状況や教育座談会、県外視察報告等、各事業内容について、広く会員の皆様に広報することを主なねらいとしています。

会報の発行は、年三回です。それぞれに特集記事を掲載したり、「視点」や「文芸欄」には、会員の皆様から作品を投稿いただいたりして、充実した魅力ある紙面づくりに努めて参ります。

また、研究紀要は、教育論文委員会と連携し、編集いたします。

会報・紀要の企画編集は、正副委員長と各研究部から推薦された二十二名の委員が行います。今年度の発行予定日は次のとおりです。

- 第一七四号(七月十四日)
- 第一七五号(十月六日)
- 第一七六号(三月五日)
- 研究紀要五五集(三月十日)

学力調査委員会
皆川 澄雄

児童生徒の学力の実態を把握するとともに、指導方法を改善し、学力の向上を図るため、「学力診断のためのテスト」を実施します。本テストは、本年度で五十一回目を迎え、県教育研究会と県教育委員会との共催で実施するようになつてから、十三年目となります。

各学校においては、テストの趣旨・方法等を記載した「実施要項」に基づき、適正な実施をお願いします。

一 活動内容

- (一)実施計画の検討及び作成
- (二)テスト問題作成と結果の集計
- (三)「問題の構成とねらい」の提示と分野・領域等別に学力の実態の把握

二 実施予定日

- ・中三……………十一月七日(火)
- ・小三～小六…十一月十一日(木)
- ・中一・中二…十一月十一日(木)

教育論文委員会
廣瀬 佳久

教職員の真摯な教育研究を助長し、本県教育の振興を図るため、教育論文の募集を行います。

- 一 応募規定
- A4縦長・横書き

- 文字の大きさは原則十一ポイントで、一枚の文字数は原則四十二字×四十行
- 二ページ以降の左づめは可
- チェック表で応募規定を確認した後、必ず原稿と共に送付

二 締切り日

平成二十九年十月三十日(月)

三 論文の審査

当委員・研究部部長・副部長等・健教育庁指導主事による

四 表彰

- ◇優秀賞 若干名
- ◇優良賞 若干名
- ◇佳作 一次審査通過者
- ◇入賞者表彰式・発表会

一月三十日に開催される茨城県教育振興大会で行う。

Webページ運営委員会
陶 慶一

高度情報化社会の進展に伴い、「教育の情報化」を推進し、子供たちに「生きる力」を育成し、「主体的対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫・改善等を推進するために、Webページを活用した情報発信を推進して参ります。

各研究部等の積極的な活用をよろしく願います。

一 活動内容

- 運営及び運営方法の改善
- 掲載内容の検討及び定期更新

- ・研究主題
- ・主な活動計画及び内容
- ・各種資料の掲載等
- 各専門委員会との連携協力
- 教育プラザWebページ管理委員会との連携

二 活動計画

○Webページ運営委員会の開催

へき地・小規模校運営委員会
岩上 賀子

本委員会は、へき地・小規模・複式学級を有する小さな小中学校を対象に学校経営や学級経営、学習指導その他の諸問題についての情報交換を通して、学校教育の充実改善を目指しています。

本年度も昨年度と同様に全県の小中学校に加盟を呼びかけ、(全県)ネットワークを生かした活動を進めていきます。

(活動内容)

- 一 郡市委員長研修会(年二回)
- 二 小さな学校の教育研修会
- 茨城大学附属小学校
- 三 全国へき地教育研究大会(高知) 七月十四日
- 四 関東甲信越へき地教育研究協議会(群馬) 八月十日
- 五 全国へき地教育研究推進協議会(東京) 十一月三十日・十二月一日
- 六 関フ口代表者会議(年二回)

好文亭 — 文芸欄 —



かすみがうら市立霞ヶ浦中学校
見いつけた
四葉の向こう 見えるのは
光り輝く あなたの瞳
憧れを 抱き叶えた 教育者
目指す姿は 遙か遠くに
来春を 願いに集いし 天満宮
陸上部 ベストを尽くす 記録会
筋肉痛 新入部員と 筋トレし
こどもたち 映るは己が 心なり
白球を 追って流れる
同 松崎 翔太
ダイヤモンド

境町立森戸小学校
大賀 均
光る汗 子どもの活躍 親の声援
青空の下の 運動会
同 川邊 亜希
さようなら
小さき兒らと ハイタツチ
その温もりに 元気をもらう
同 蛸原 啓子
紫陽花や 赤き長靴 出迎える
同 張谷 聡美
朝日降る 花壇で輝く ミニトマト
同 荒井 秀世
歌にのり
歯をみがく子らの 顔と顔
さわやかな風 窓も心も
同 中條 美恵
下妻市立豊加美小学校
「おはよう」と
合わす手と手の 温もりで
今日も元気の チャージ完了
同 木田 峰子
誕生日 欠席ゼロの日 牛乳乾杯
同 國上 篤史
子らの目の 輝く先の アゲハの子
同 山重 明子
転んでも すぐ立ち上がる 徒競走
がんばる気持ちは 皆一等賞
同 井濤 三佳
ちり紙って
ティッシュのことだよ 一年生
同 常陸大宮市立村田小学校
鈴木 理恵
運動会 思い出残る 日焼けあと

同 菊地 恵美子
モンシロチョウ
羽化する時期を 待ちわびる
同 河野 文香
常陸大宮市立上野小学校
ふりそそぐ 水と光と 褒め言葉
どんだん伸びる 子どもとゴーヤ
同 森田 充
空っぽの プールに写る 夏休み
同 古谷 沙耶香
常陸大宮市立大宮西小学校
異動して机の上にある葉書
恩師の言葉 お守りになり
同 蓮田 由美
運動会 元気に校歌を 歌いすぎ
咳き込む姿も 微笑まし
同 高村 恭子
常陸大宮市立緒川小学校
神棚に 背番号置く 日焼けの子
同 編引 寿志
花の春 さらぬ別れの なくもがな
人生不如意 十常八九
同 遠藤 由季子
日上市立中里中学校
シュレッダー 綺麗に片付く 万能機
時に冷や汗 背筋に寒気
同 近藤 芙美子
毎日を 仕事に追われ 過ごしても
頑張ろうと思う 生徒のために
同 木内 智美
世の中の 憂いはあれど 絵は自由
同 中野 延彦
迫りけり 新緑の葉が 爽やかに

同 荻津 知也
梅雨過ぎて 三〇℃越える 技術室
風鈴吊り下げ 暫し涼とる
同 木村 一司
久々に やつて来たのは 卒業生
変わらぬ笑顔に ほっと安堵す
同 佐川 拓
重責に 悩みは多し 然れども
職員の前で 心救わる
同 石川 沙奈江
学び合い 友の助言は 学び愛
同 小沼 美由紀
背くらべ 今年優勝つたよ!
花壇の ひまわり
同 板垣 千秋
あさがおの 芽が出たうれしい
にらめっこ
同 生井沢 美智子
月曜日 子どもの笑顔と 生まれり
同 大曾根 沙和
試験こえ 輝く笑顔の 自己ベスト
同 谷田部 友梨
異動かな? 周囲驚く 台車移動
同 成井 京子
紫陽花の つばみ膨らみ 心躍る
同 龍ヶ崎市立龍ヶ崎小学校
福嶋 規子
薄雲を 脱いで大空 夏を待つ

龍ヶ崎市立大宮小学校
宮本 卷子
白球を 追いかけてつけ 光る汗
龍ヶ崎市立八原小学校
海老原 禎久
高らかに 宣誓響く 運動会
龍ヶ崎市立久保台小学校
本橋 久美子
傘さして はしゃぐ子の横 蛙とぶ
龍ヶ崎市立中根台小学校
下村 徹
思い込め きらめく額に 薫る風
龍ヶ崎市立龍ヶ崎西小学校
齋藤 敬志
子をしかり 自分もそうかと 自省する
同 野崎 智子
食事はね 袋の味より お袋産
龍ヶ崎市立松葉小学校
永長 佐知子
花金は たまった仕事も プレミアム
龍ヶ崎市立長山小学校
内田 有一
高安に 稀勢の里らの 活躍は
常陸の国の 誉れなり
龍ヶ崎市立久保台小学校
澤田 義久
泡と消ゆ つのる思ひの はかなさよ
アンデルセンの 森の五月雨
龍ヶ崎市立城西中学校
松立 未来
教卓が 戦場となる 腕相撲
われもわれもと 右手左手

平成 29 年度 第 52 回 教育論文募集要項

一 趣旨 県勢の発展に寄与する教育の重要性に鑑み、教職員の真摯な教育研究を助長し、これを顕彰して、本県教育の振興を図る。

二 主催 茨城県教育研究会
後援 茨城県教育委員会

三 対象 茨城県教育研究会の会員を対象とし、研究は個人または、共同のいずれでもよい。

四 論文の募集
(1) 研究の内容
ア 本県教育の課題をさぐり、教育の進展に寄与するもの。

平成 29 年度研究の目標

次期学習指導要領が目指す姿を踏まえ、子供たちに、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた研究を推進する。併せて、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実に努める。

1 学ぶ意欲を育む。
2 思いやりと感謝の心を育み、健全な体を育てる。
3 道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心と健やかな体を育成するための研究に努める。

3 創意ある教育活動を展開する。
イ 部門は次に掲げるもの。(応募票に審査を受けたい部門名を一つ書くこと)。

教育課程・学習指導、国語、社会、算数・数学、理科、生活・総合的な学習の時間、音楽、図画工作・美術、体育・保健体育、家庭・技術、特別活動、学校行事、学校経営、学

術、体育・保健体育、家庭・技術、特別活動、学校行事、学校経営、学

二 応募規定(厳守)
ア ○A4 縦・横書き・上質紙

イ 目次(1枚)・研究概要(1枚)・本文(11枚以上13枚以内)の順で綴じる。(合計13枚以上15枚以内)

ウ 本文の冒頭に「研究主題名」を記載する。

エ 本文内の資料は、10点以内とし、資料1・資料2と表記する。複数点の資料をひとつの資料とする場合は「 囲みとする。図表・資料等の過度の縮小は行わない。児童生徒の作品等は、文字がはつきり読めるものにする。

オ 別添資料を付ける場合は、本文に関連の深いものとし、必要最小限とする。

イ ひとめで上綴じ、応募票(A4 縦半分)を表紙に貼付

カ 指導案が必要な場合は、その一部を資料として本文に入れる。指導案全文を資料とする場合は、「別添資料」とする。(本文中で、「別添資料1(学習指導案)」と表記)

キ 参考文献の表示は、本文内に含めて書く。

ク 研究発表会で発表されている場合は、必ずその旨を研究概要に明記する。

ケ 以下の①、②を、応募論文とともに必ず送付する。

① 応募票のコピー(1枚:A4 縦半分)
② 応募チェック表(1枚)

校内で、チェック表を活用して応募規定の確認を必ず行う。

(3) 応募上の留意点
ア 文部科学省指定校、県研究推進校等としての研究内容とは同一内容の論文でないこと。

イ 内地留学・大学院・十年経歴者研修等であつたこと、および同一内容の論文でないこと。
ウ 郡市町村以外の団体、もしくは教育弘済会等他機関に応募した論文と、ほぼ同一内容の論文でないこと。
エ 過去に賞を受けた論文(優秀賞・優良賞)の再応募でないこと。

(4) 送付及び締切り日
ア 送付先及び問い合わせ先
〒311-1125 水戸市大場町九三三ー一
「教育プラザいばらき」内
教育論文委員会係宛

TL029(二六九三〇〇)代
イ 締切り日
平成29年10月31日(火)厳守(当日消印有効)事務局へ直接持参する場合は、10月31日(火)午後5時まで。

六 論文の審査
(1) 提出された論文は、下記によって構成された教育論文委員並びに審査員が審査する。

教育論文委員——教育研究会代表・県教育庁義務教育課代表
審査員——研究部の部長及び副部長等・県教育庁指導主事

(2) 審査結果の発表
平成29年12月22日(金)に本人に通知する。

七 表彰
優れた論文に対して賞状及び副賞として次の研究奨励費を贈る。
◇優秀賞 5万円 若干名(県知事賞・県議会議長賞・県教育長賞等も合わせて表彰)
◇優良賞 1万円 若干名
◇佳作(二次審査を通過した者のうち、優秀・優良以外の者)
◇褒状(応募者のうち上記以外の者)
※共同研究の場合は代表者1名に贈る。

八 その他
(1) 優秀賞・優良賞を受けた論文は、「教育論文集 第52集」として、茨城県教育研究会の学校及び関係機関に配布する。
(2) 優秀賞・優良賞を受けた論文は、WEBページ(教育プラザいばらき)・茨城県教育研究会)に掲載する。

(3) 募集要項と応募票、応募チェック表は、WEBページ(教育プラザいばらき)・茨城県教育研究会)に掲載する。

表は、WEBページ「教育プラザいばらき」・茨城県教育研究会)に掲載する。
応募票は、WEBページからダウンロードして使用する。
(4) 別添資料の応募票は、「教育論文応募票(個人または共同)」の表題を、「別添資料(個人)」または「別添資料(共同)」と、表記を変える。

※見出し記号等について
1
(1)
ア
※2ページ以降の左づめは可とする
※文体は常体とする
※罫線は行間を原則とする
※二桁以上の数字は半角を原則とする

<文章の書き出し等>
1 空
文章の書き出し→
改行→
(1) 空
文章の書き出し→
改行→
① 空
文章の書き出し→
改行→
ア 空
文章の書き出し→
改行→

<よい論文をつくるためのポイント>
1 主題に対し、研究の進め方は適当か。
2 確かな論拠に基づき、論旨は明確か。
3 内容に独創性があるか。
4 実践(研究)の積み上げがあるか。
5 教育上または研究上の利用価値はあるか。
6 論文の体裁はどうか。
・論文の構成
・制限枚数
・文字数
・行数
・誤字脱字
・資料
・参考文献など

様式1 応募票(大きさ、A4の2分の1)

第52回 平成29年度 教育論文応募票(個人)			
受付番号	※	部門	※
題名	フリガナ		
勤務校	フリガナ		
職・氏名	フリガナ 氏名	性別	年
年齢	教職経験年数		年

様式2 (様式1と同じ) ※印は記入しないこと。

第52回 平成29年度 教育論文応募票(共同)						
受付番号	※	部門	※	※	※	※
題名	フリガナ					
代表者校	フリガナ					
代表者名	フリガナ 氏名	性別	年齢	教職経験年数	年	年
研究者構成						

表は、WEBページ「教育プラザいばらき」・茨城県教育研究会)に掲載する。
応募票は、WEBページからダウンロードして使用する。
(4) 別添資料の応募票は、「教育論文応募票(個人または共同)」の表題を、「別添資料(個人)」または「別添資料(共同)」と、表記を変える。

編集後記

本年度のテーマ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善・充実のもと編集にあたりました。編集の方針は、次のとおりです。

- ① 県教育研究会の研究の重点をふまえ、活動内容・事業等の状況を報告し、会員の理解を深める。
- ② 各研究部、支部等の情報提供と研修・研究の動向を示す。
- ③ 会員相互の研究発表の場の拡大を図る。
- ④ 親しみやすく、読みやすい紙面の編集に努める。

ご多用の中、原稿・写真をお寄せくださいました先生方に深く感謝申し上げます。

なお、本年度の会報・紀要委員会は、伴敦夫教育研究会副会長

の助言のもと、委員長 川井洋子(水・稲荷一小)、副委員長 橋義孝(水・妻里小)と各研究部から選出された二十二名の委員が担当します。第一七四号は、正副委員長と次の担当者が編集にあたりました。

- ◎ 大口由美子(水・赤塚中)
- 三浦 広樹(水・見川中)
- 鈴木真太郎(水・千波中)
- 山野邊佳苗(水・吉沢小)
- 高松 剛(水・国田義務)
- 矢口 康代(水・双葉台小)
- 八木 克弘(水・中根小)